



やあ!

TIA news

やあ!特集

日本で母国語を学ぶ子どもたち

- とちぎでくらしで… ツツミ 朝倉 デボラ サユリさん
(ブラジル)
- ようこそとちぎへ 県国際交流員 王 政さん(中国)
- 世界をペロリ チリ料理「エンパナーダ」
- 心に残る私の写真 チリ 峯岸 享さん
- 国際理解への扉 「栃木県から世界へと出発しました!」

世界のスイーツ

SWEETS

~トルコ編~



トルコのお菓子なんてなじみがないなんていう人も多いかもしれませんが、映画「ナルニア国物語」にも登場したロクム(英語名: ターキッシュ デライト)というお菓子。日本の求肥やゆべしに似た食感。ドイツのグミにも似た感触かもしれません。トルコではいたるところで売られているポピュラーなお菓子で、周りには砂糖、中にはナッツが入った甘いお菓子なので、苦いコーヒーにはマッチします。

ツツミ 朝倉 デボラ サユリさん (38歳)

Deborah Sayuri Tsutsumi Asakura



プロフィール

ブラジル・サンパウロ州出身。宇都宮市在住。ご主人とは、ブラジルで知り合い、結婚。2006年6月来日。現在、切り紙を教えるなど積極的に活動中。

一初めまして。来日は初めてではないとお聞きしましたが。

サユリ 実は、ブラジルの大学卒業後、1994年～95年の1年間、福井県の海外技術研修員として旅行社で研修をさせていただきました。いろいろ学んだことがとても役に立ち、来日したときの生活は新鮮で楽しかったです。ブラジルに帰国後も旅行社で仕事をしていて、ずっと去年まで働いていました。私は、ジャンジーラ市のお祭りのときに主人に出会い、知り合いました。主人は2002年から5年間海外転勤でブラジルのスマレ市にいたんですが、ブラジルで結婚し、一年後、栃木のほうに戻ることにしたため、それを機に私も来日することになりました。主人とは今でも普段はポルトガル語で話しています。主人の家族によく会うチャンスがあって、いつもメールを送ったり、電話したりしていて、とてもいい勉強になっています。

一そうなんですか。日本に来て困ったことなどはありませんでしたか。

サユリ 特に、日本で困ったことというのはありませんでした。ただ、たまにブラジルにいる家族のことを思いだすと寂しくなり、毎週、母と電話で話しています。家族の声だけ聞くと、とてもうれしくて安心します。

一現在、切り紙を教えたりされてるとのことですが、始められたきっかけは何ですか。

サユリ 日本語サークルで知り合った友達に自分で作った切り紙カードを見せたら、作り方を教えてほしいといわれたので、興味を持って人もいるなら教えてみようかと思い、教えることにしたのが、きっかけですね。以前、ブラジルにいた頃切り紙を習いたいと思って「アトリエ・ナオミ・ウエズ」で3ヶ月間、先生について勉強しました。自分でも機会があったら教えたいと思っていた矢先のことでした。自宅とTIAでも10月から切り紙のサークルということで友達らに教えています。ホンジュラスの友達が帰国後、教えたいといわれて本当に切り紙を教えていてよかったとうれしくなりました。



▲切り紙を教えているサユリさん

一お話を聞いててぜひ学んでみたいくなりました。ほかにもいろいろ活動されているようですが。

サユリ そうですね。最初、去年の8月に主人の友達がエリザさんを紹介して、TIAのことを知り、毎週日本語サークルに通い、日本語を勉強しています。そして、9月から私と主人がボランティアで清原の子どもたちへのポルトガル語教育のお手伝いもしています。年末は大通りにある国際交流

プラザのカフェサロンで切り紙を教える機会がありました。また、今年の2月から、自宅でこれからブラジルに転勤する人に、ポルトガル語を教えたり、今後は、アート教室での切り紙の活動も行いたいと思っています。



▲ブラジルにいる頃のご主人と

現地では、午前中は、地元のアルファ語学学校でフランス語を勉強し、午後はフリー。語学レッスンは5～6人のグループで行い、生徒はすべて外国人。先生はフランス語のみで教えるというものだった。分からない単語は持っていった電子辞書でスペルを入力してもらいながら言葉を追いかけた。午後は、積極的に町に出かけたそう。ホストファミリーは優しい人たちで、フランス語で会話したりした。週末はホストファミリーと車でないと行けない南の海のように連れて行ってもらい、野生のフラミンゴを見るなど観光では味わえない貴重な経験もした。ホストファミリーには7歳の女の子がいて、妹のいない山本さんには妹ができたようでうれしかったという。フランス人とは考え方や文化が違うが、ホストファミリー夫婦や語学学校の先生が正式には結婚していないいわゆるフランス婚で、夫婦がパートナー関係であり、ホストファミリーのご主人は今の奥さんで3人目だと明るく話してくれたことが、今回一番驚いた印象深かったことだという。この1か月のフランス滞在は自国の文化を見つめ直せるいい機会、大きく成長したという。卒業後はフランス系企業に就職したいと意欲的に話してくれた。



▲語学学校での授業風景



Report ポート

友好交流青年相互派遣事業 フランス・ヴォークリューズ県派遣

山本 裕理 さん (20歳)

平成19年度から始まったフランス・ヴォークリューズ県派遣事業に宇都宮大学国際学部2年の山本裕理さんが選ばれ、3月8日から4月7日までヴォークリューズ県アヴィニオン市でホームステイをしながら語学学校に通い、フランス語を学んできた。現地での交流の様子を語ってもらった。

行く前からフランスに興味があったという山本さんは、フランス語を第2外国語として選択し、大学の合唱サークルに所属しスペインへの演奏旅行へ出かけ、現地の教会で合唱するなど、海外での経験も豊富。今回、行くきっかけとなったのは国際学インターンシップやキャリアアップセミナーでこの事業のことを聞き、参加してみたかったからという。

一人で海外に行くということが初めての経験だった山本さんは、当初かなり不安だったが、飛行機で隣になった人が日本人で、親切にTGVの駅まで案内してくれて、無事に、アヴィニオンのホストファミリーに会うことができてほっとしたようだ。



王 政 さん (29歳)
Wang Zheng

プロフィール

中国・浙江省上虞市出身。中国では浙江省外事弁公室アジア処勤務。この4月から栃木県産業労働観光部国際課で国際交流員として活躍中。

一王さん、こんにちは！日本語がお上手ですね。

王 高校までは、外国語は英語しか勉強したことなかったのですが、大学るとき、日本経済貿易を専攻し、初めて日本語を学びました。大学卒業後は、上海にある日系企業で働いて、実際に日本人と共に仕事をして、日本語と同時に日本の企業のしくみや日本の社会など実情も知りました。その後、故郷である浙江省に戻り、外事トレーニングセンター職員となり、現在は、浙江省外事弁公室で、日本担当として勤務しています。

一なぜ日本語を学ぼうと思ったのですか？

王 子どもの頃、「君よ憤怒の河を渡れ」という高倉健主演の映画を見て、それが衝撃的だったことと、昔から日本と中国は文化的な往来が頻繁に行われていたので、日本と中国の関係に興味を持ちました。それと漢字という文字が日本語はとっつきやすいイメージがあったのも理由かと思います。日本の漢字は中国の現在の漢字とは簡略方法も違うので、覚えづら



い面もありますが、大学時代はパソコンがなく、紙に書いて覚えたので、今になってはよかったですと思います。一日本には何度か来られているようですが、実際に栃木で生活してみて驚いたことはありますか。

王 仕事で来るのと実際生活するのは違いますね。浙江省と比べると、栃木県の夜はやはり寒いですが、でも人も親切で住みやすいところだと感じます。

ただ、日本の車の左側通行はまだ慣れませんね。生まれてから、ずっと右側通行が習慣づいてしまっているの、なかなか反応を切り替えるのは難しいです。無意識に反対を見てしまってひやっとすることも時々あります。それから、日本で不便に感じていることは、ゴミの収集日です。中国ではゴミ収集車は毎日来るので、収集の曜日が決まっているということには慣れません。また、分別も細かくて外国人には難解だと思います。普段、日本人はゴミ収集が毎日来ないということに慣れているかもしれませんが、ゴミがたまってしまうと部屋に異臭がしたり、ゴミ回収に対する不便さを感じないのかが不思議ですね。

一今後の抱負を聞かせてください。

王 日本では、日本語はもちろんですが、いろんな場所に行ってみ聞かしてみたいです。また、同時に、いろんな年代の人との交流を深めたいと思います。小・中学生と一緒に楽しむ交流もよいですが、中国の紹介をするのにあたってはできるならある程度知識を持った高校生、大学生などの更に一歩進んだ現代中国の認識を持てるような人たちとの交流を行って行きたいです。自分は学生時代から自炊したりしていて、料理もできるので、中国料理教室を開き、家族で参加してもらい、料理を作りながら、日本と中国の食文化や家庭に対する考え方の相違などを理解できるような講座をぜひ開きたいです。

世界をペロリ

このコーナーでは世界のおいしい食べ物をレシピ付きで紹介いたします。



今回、料理を作ってくれたのは、チリ出身のマリア エレーナさん。南米では、人気の定番という「エンパナーダ」を紹介していただきます。



▲ラテン風揚げ餃子「エンパナーダ」

チリ料理「エンパナーダ」EMPANADA

材料(10人分)

- | | | | |
|----------------------|----------|-----|-------|
| 小麦粉(1kg) | 1袋 | パセリ | 1袋 |
| 玉ねぎ | 2個 | 牛乳 | 150ml |
| 卵 | 3個~4個 | | |
| 豚ひき肉 | 250~300g | | |
| サラダ油 | 300ml | | |
| ベーキングパウダー | 少々 | | |
| ビーフコンソメ | 1個 | | |
| 香辛料(黒胡椒、塩、クミン、唐辛子)・塩 | 少々 | | |
| ラード | 8個 | | |



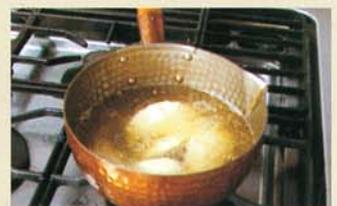
①玉ねぎ、パセリをみじんぎりにし、鍋にサラダ油を入れ、ひき肉とコンソメ1個を入れ、唐辛子クミン、塩コショウをし、温めた牛乳に小麦粉大さじ2杯を水で溶いたものを鍋に加え混ぜ合わせる。



②ボールに小麦粉1袋と塩、ベーキングパウダー少々を加え、加熱したラードと溶いた卵3個、牛乳(カップ1杯)を加え、練り合わせ、皮を作る。



③餃子を作る要領で、丸い玉を作り、すりこぎ等で伸ばしながら、皮を作り、さきほどの具材を入れて包み込む。包み終わったら、妻ようじ等で空気をあける。



④鍋にサラダ油を入れ、高温になるまで熱し、キツネ色になるまで揚げたらできあがり。

特集 日本で母国語を学ぶ子どもたち!

宇都宮ラチーノス/ ポルトガル語



「宇都宮ラチーノス」という団体を立ち上げ子どもたちにポルトガル語教育行っている石川アンナさん。

テキストは母国から

ポルトガル語を子どもたちに教えている「宇都宮ラチーノス」では、毎週土曜日に清原の公民館で夜6時半～8時までの2時間、約30名のブラジル人の子どもたちにグループ別にポルトガル語を教えている。一言で教えるといってもレベルは様々。親と一緒に時間の長い小学校に入る前の児童やポルトガル語で家庭でも話している子どもたちは、会話能力もあるので、ポルトガル語の勉強は読み書き中心の教育になるが、家庭ではほとんど日本語しか話していない子どももいて、そういう子どもたちは、日本人が外国語を勉強するクラスと同様に、文法中心のポルトガル語教育となる。そのため、使うテキストもまちまちで、未就学児、低学年の子どもたちが使用しているワークブック形式のテキストはすべて母国にいる親戚の人に頼んで送ってもらったものだという。小学生や中学生が使っているテキストは、ブラジルの小学校で実際使っているテキストを使用し、群馬県にあるブラジルの専門書店で購入したもの。輸入品のため、とても高価。そのため、これらの費用は「宇都宮ラチーノス」と保護者との折半という形を取り、毎月月謝を徴収している。

母国の文化を伝えたい

保護者の悩みの一つに、母国語の習得のほかに、母国の習慣や文化をなんとかして理解してもらいたいということがある。日本で生まれ育ったり、日本の学校に通い、日本の習慣が身につけてしまった子どもたちには、家庭で保護者が教育的に母国の文化や習慣などを教え込んでいっているが、なかなか思うようにいかない。日本語がなかなか覚えられない保護者にとっては、子どもが日本の友達もできて、日常会話に支障がなくなってくると、親子のコミュニケーションがとりにくくなるという状況が起こる。もし、ブラジルに帰国ということになったらどうしようという現実を踏まえ、毎週土曜日のポルトガル語を習う時間帯にポルトガル語の学習と先生たちからゲームやブラジルのインディアン絵本の読み聞かせを通じて、ブラジルの文化、習慣について学んでいる。ブラジルのインディアンの自然と一体になって暮らしている話とかブラジルの風俗習慣が移民がブラジルにやってくる前にあったオリジナルの文化だということや彼らにまつわる物語に興味を持つ子どもも少なくない。また、ブラジルでは必ずお祝いをする祝日（復活祭、母の日、6月の収穫祭）を説明したり、実際に会場を借りてイベントも行っている。特に、6月の収穫祭は公園を借りて野外でポトラック形式の食べ物を提供したり、ゲームや親子で実際にブラジルのフォークダンスを踊ったり、同じ日に、親子のコミュニケーションの一環として運動会も行う。これはブラジルでも同じ秋に、運動会を開催しているからだという。ブラジルでは、男の子が女の子と日常的に手をつないだり、ダンスを踊ったりしているが、日本に馴染んだ子どもの中には、恥ずかしいと感じ嫌がる子どももいる。このような活動によって、自らブラジルの文化や習慣を体得しているようだ。



〈子供たちにポルトガル語を教えているボランティアたち〉

日本に定住する外国人が増えるに伴い、子どもたちが日本での教育を受け、次第に母国の文化が薄れ掛けている。こうした悩みを抱える外国児童の親は、母国の言葉や文化を教育しようと考えている。家庭内でできる範囲は限られているので、どうしても外部の協力が必要となる。今回の特集コーナーでは、こうした外国児童への母国語教育を行っているタイ語とポルトガル語の2つのボランティア団体を取り上げ、実際にボランティア活動をされている代表の方に活動内容や悩みなどを聞いてみた。

デック・タイ DEK THAI / タイ語



タイ語を環境の違う日本で教えることの難しさを語るのには、DEK THAI (デック タイ) でタイ語を子どもたちに教えている草野アンカナさん。

DEK THAI (デック・タイ) の命名

最初は、別のボランティアグループが教えていたのだが、教えることのできる先生がいなくてDEK THAI (デック タイ) というグループを作り、タイ語を教えるボランティア活動を引き続き行うということで引き継いだ。意味は「タイの子ども」。現在5人の子どもに教えているが、1人は大学生。以前は、とちぎ国際交流センターの部屋を借りて、1ヶ月に2回程度、土曜日に行っていたが、日曜に教えて欲しいとの保護者からの要望で、現在は宇都宮市の東コミュニティーセンターで、12時～3時の3時間教えている。3時間という授業時間は類をみない長さなので、子どもが飽きてしまう。そのため、教える先生たちは試行錯誤して、間にティータイムの時間を入れたり、簡単なタイの遊びや絵カードを使った教授法を用いたりして教えている。タイ語の場合、欧米の言葉のようにアルファベットを使った文字ではなく、独特なスタイルの文字なので、韓国語のハングル文字を覚えるように44文字覚えてもらわなければならない。また、タイの数字や中国語のような発音の5段階声調を習得しなければタイ語が話せないなど、一筋縄ではいかない問題もある。しかも教える

のが子どもということもあり、先生たちは子どもの親しみやすい教材を母国に一時帰国した際に探したりしているが、タイで売っている教材は、もともと会話のできるタイの子ども向けの教材が多く、日本で売っている日本語教材のように外国人向けの教材がほとんどないので、さがすのは大変で、結局一部の教材は先生の手作り教材だという。タイの文字の習得のための文字練習帳はタイで購入できるため、その教材を用いて、文字とその発音、特に日本語にない発音を伴う母音もあつたりするので、子どもには難しいという。



去年の暮れに、文字の習得度チェックを図るということで、今までの文字をテストしてみたが、実際に行ってみると文字ができる子どもとできない子どもの差が出てしまったりしている。対策として、マンツーマン教育で教え、毎回、宿題を出して、熟知を図っている。また、運動会等の行事が重なって、タイ語の勉強をしていないと忘れてしまう子どもがいるので、どのように教えていったらいいかが今後の課題であるという。

去年の暮れに、文字の習得度チェックを図るということで、今までの文字をテストしてみたが、実際に行ってみると文字ができる子どもとできない子どもの差が出てしまったりしている。対策として、マンツーマン教育で教え、毎回、宿題を出して、熟知を図っている。また、運動会等の行事が重なって、タイ語の勉強をしていないと忘れてしまう子どもがいるので、どのように教えていったらいいかが今後の課題であるという。

タイでの実体験

ある程度タイ語を習得した児童でも、環境が違い、教室を出てしまうと日本語の世界に溶け込んでしまって、タイ語は教室内でのみという子どもが多い。保護者のほうからは、タイ語の単語ではなく、会話を教えてもらいたいとの要望もあり、会話も少しずつ教えるようにしているという。その理由は、子どもたちが両親とともにタイへ帰国したときに、祖父母と会話ができないという現実があるからだ。タイで重要とされる食文化、習慣を身に着けるためにも、夏休みや冬休みなど長期の休暇があるときは保護者と共にタイに行き、タイの生活に溶け込めるように、タイ料理を食べたり、タイの文字の中で生活できるなど、実際のタイの文化、風俗習慣に身を持って体験するようなことを保護者も行っている。このような体験をする前と後では、タイ語の習得に対する意欲やタイに対する意識も変化するということが大変効果的なようだ。唯一の大学生は一度タイに行き、印象深くタイが好きになったということもあって、タイ人が教える別の教室でも勉強を始めるきっかけとなった。また、日本でもクリスマスパーティーなどのイベントも定期的に行い、タイの味も知ってもらおうとタイ料理を持ち寄って、食べさせたり、プレゼント交換なども行い、タイに親しみを持つ工夫をしている。



〈クリスマスパーティーにてプレゼント交換〉



▲チリの子どもと峯岸さん

今回写真を提供してくれたのは、峯岸 享さん。平成17年7月から2年間、青年海外協力隊として、チリの南部に位置するチロエ島で、体育隊員として活動してきました。そのとき撮った活動の様子と文化交流の様子を紹介してくれました。

チリのサムライ

「サムライがチロエに来てほしい」そんな同僚たちの会話を耳にしたのは赴任後、3、4ヵ月経ってのこと。それから程無くして私の事務所に一本の電話がかかる。「チロエにいるサムライを探している。手伝ってほしい。」まだまだ拙いスペイン語での対応であったが、私にはそう聞こえた。任地から40Km離れた隣町へバスで向かうと、バス停には10名ほどのチリ人たちが出迎えてくれた。案内されるまま向かった先は合気道の道場。よくよく聞けば任地で剣道を教えていた私を探し出し、剣道を習いたかったのだという。日本の裏側、チリの首都から1,200kmも離れた田舎町で日本武道をこよなく愛する人々との出会いの瞬間だった。



もちつき

日本国内でも臼と杵を使った餅つきはなかなか体験する機会が少なくなっているが、わたしのいたチリ南部にはそんな餅つきがあった。漁業が盛んな地域柄日本との関わりも深く、日本人が多く住んでいるのがその理由であった。チリ在住の日本人から地域のお祭りに招待され、他の隊員と共に餅つきの手伝い。北米産のもち米と手製の臼と杵を使い、ついたお餅はこれまた北米産のきな粉をまぶしてみんなに配る。子どもの頃手伝った記憶がこんなところで役に立った。

このコーナーで紹介する写真とエピソードを募集しています。
詳しくは、協会までお問合せください。(☎028-621-0777)

Report レポート

国際理解教育実践セミナーⅡ ～テーマ「伝えたいこと」～

昨年4月に大好評だった国際理解教育実践セミナーの第2弾を3月22日(土)に開催しました。今回のテーマは、「伝えたいこと」です。

学校教員、国際交流団体の方、青年海外協力隊OB、大学生など国際理解教育に関心のある方々が参加し、終日アットホームな雰囲気の中、セミナーが開催されました。

1部は「学んだこと、伝えたいこと」と題して、JICA教師海外研修2007カンボジアコースに栃木県から参加された4名の先生方が、研修先で見たこと・感じたこと・学んだことを、帰国後どのように子どもたちに伝えたか、授業で実践した参加型手法を交えて報告しました。

2部は講師の方を迎え、「伝え方講座」を行っていただきました。参加型学習を体験し、分析を行いながら参加型について理解を深めました。



▲1部「学んだこと、伝えたいこと」教師海外研修参加教員による報告

参加型学習で伝えたい。伝えられる概念(What)をどのように伝えるか(HOW)というセッションでは、大切なのは手法(HOW)ではなく、何を伝えたいか(What)であること、それにより参加型学習は無限に展開できるということが学べました。

参加した方々から寄せられた意見や感想は次のとおりでした。

- ・先生方が、それぞれの工夫をしながら子どもたちにメッセージを伝えている様子が分かった。
- ・実際に授業で実践されていたことを見て、体験することで、楽しみながら学べることを改めて感じた。
- ・カンボジアという国について、多くのことを学ぶとともに、様々な手法で子どもたちに国際理解教育を推進していることもわかりました。
- ・現場で体験した方が伝えるというのは説得力がよいと思います。
- ・県内にも「思い」や「熱さ」を持っている先生方が少なくないということを改めて感じてうれしくなりました。
- ・参加型学習のポイント(なぜ参加型学習がよいのか)がわかりやすかった。
- ・「参加型」を実体験しながら学ぶことにより、この学習法のメリットを身をもって知ることができた。
- ・テーマについて様々な形、手法で分析することによって、テーマに関する理解をより深めることができた。
- ・参加型学習によって様々な人と関わる機会を持つことができ、様々な意見や考え方に触れることができて楽しかった。



▲2部「伝え方講座」の様子

2008年7月と2009年2月に国際理解教育実践セミナーを開催予定です。すでに国際理解教育に取り組んでいる方も、これから取り組みたいと考えている方も、楽しみながら学べるセミナーを企画したいと思います！

「わいわい地球っ子クラブ」～韓国・アンニョンハセヨ～

小学生の国際理解のためのクラブの第22回が韓国をテーマに、3月8日(土)にちぎ国際交流センターで実施された。小学校3年生～6年生の25名が参加。

この日は、韓国出身の韓相榮(ハンサンヨン)さんにご協力いただき、韓国について紹介していただいた。

韓国のことを簡単に紹介していただいた後、韓国語の簡単な挨拶を教わり、その後韓国の伝統楽器(打楽器)を実際にたたいたり、民族衣装を試着したりした。また、ハンさんが、韓国の「チェギ」という遊びを教えてください、子どもたちと遊んだ後は、「トックック」という韓国風の雑煮をみんなで思い思いにトッピングして味わって、楽しんだ。



日仏青少年短期研修生帰国

栃木県と友好交流を進めているフランス・ヴォークリューズ県で県内の高校から選ばれた5名が、3月11日(火)に無事2週間の研修を終えて、帰国した。

5名の研修生は現地の高校で体験通学やホームステイを行ったほか、フランスの歴史や文化にも触れてきた。



栃木県海外技術研修員帰国

栃木県が国際協力の一環として受入れている3カ国5名の技術研修員が3月13日(木)にそれぞれの国に帰国した。帰国後は、日本で学んだ技術を活かし母国発展に貢献するとともに、日本との友好の架け橋として活躍することが期待されている。



Club lycée 「クラブリセ」 ☆知りたかった! アメリカ大統領選挙☆

高校生のための国際理解クラブ「クラブ・リセ」の今年度最後のミーティングが3月15日(土)にちぎ国際交流センターで行われた。ゲストはアメリカ出身の栃木県国際交流員のケント・マレンさん。

「知りたかった! アメリカ大統領選挙」というテーマで、大統領選挙の方法をわかりやすく紹介した。また、各党候補者のスローガンについては、CMシーンを見ながら、英語の内容とスローガンに隠された意味を学んだ。最後は、何を学んだかを振り返り、会員同士で話し合った。



国際理解への扉 道への越え国

「栃木県から世界へと出発しました!」

春の陽気となった3月17日(月)、65日間の派遣前訓練を終え、候補生から青年海外協力隊員となった4名のみなさんが、任国への出発の前に、栃木県副知事や産業労働観光部国際課、下野新聞社を表敬訪問し、恒例となった青年海外協力隊とちぎ応援団の壮行会に出席しました。

表敬訪問や壮行会では、たくさんの暖かいお言葉や激励を頂くと同時に、多くの方の期待や応援があることを肌で感じた事と思います。隊員だからこそできる国際協力や国際交流など、いろいろな経験を積んで来てください。そして、2年後、みなさんの活動報告が開けることを楽しみにしています!

<19年度4次隊青年海外協力隊4名の皆さんより>

- 山崎莉奈さん(ガーナ・服飾)
いち早く現地にとけ込み、自分の持っている知識を少しでも多くの人たちに広めたいです。
- 池澤恭輔さん(モザンビーク・コンピュータ技師)
Mosambicanoになって帰ってきます。
- 斎藤隆志さん(パプアニューギニア・村落開発普及員)
村人の1人として一緒に村落を開発します。
- 増田めぐみさん(ザンビア・理数科教師)
現地の高校生を理科好きにさせたいです。そのためにもたくさん実験をしたいです。

☆今年度は青年海外協力隊派遣累計が3万人を越えたり、年4回のボランティア派遣開始、青年海外協力隊とシニア海外ボ

ランティアの合同訓練の開始など、JICAボランティア事業の節目となった1年でした。



▲麻生副知事を表敬訪問した協力隊員

<平成19年度栃木県からの派遣人数>

- 青年海外協力隊 17名
- シニア海外ボランティア 3名
- 日系社会シニア海外ボランティア 1名

JICA栃木デスク: 知久志穂子

第85回定期演奏会

栃木県交響楽団

2008年6月15日(日)午後2時開演(1時30分開場)宇都宮市文化会館大ホール



<指揮>
末廣 誠

<演奏曲目>

- ベートーベン
エグmont序曲
ピアノ協奏曲第3番
- R・シュトラウス
交響詩 英雄の生涯



<ピアノ>
羽石 道代

全自由席 ¥1,500円(前売1,200円) 電子チケットぴあ
お問い合わせ 栃警事務局 ☎ 028-643-5288

平成20年度国際化推進事業の 助成事業募集中!!

TIAでは、栃木県における国際化をさらに推進するために、「国際化推進事業助成金」があります。

○対象事業

- 一般県民に公開される
- 営利目的ではない
- 県内において実施される
- 日程と内容が具体化している
- 宗教活動または政治活動を目的とするものではない

○申請者の資格

- 県内にある国際交流等の団体
(上記団体の実施委員会も可)
- (注) 地方公共団体等から運営経費の補助を受けている団体は除きます。

○申請締切り 5月31日(土)

○問合せ (財)栃木県国際交流協会

TIAの国際理解クラブ 会員大募集!!

高校生のための

●Club lycée

参加者からのアイデア大歓迎!
国際的視野を身につけよう!!

活動内容 参加型セミナー、外国人との交流など

活動回数 年6回

年会費 無料

小学3～6年生のための

●わいわい地球っ子クラブ

同じ地球で生活する仲間として、
一緒に世界を学ぼう!!

活動内容 ゲーム、料理、工作、外国人との交流など

活動日 6・9・12・3月の土曜日(年4回)

年会費 1,000円

お問合せ (財)栃木県国際交流協会

☎028-621-0777

賛助会員募集!!

(財)栃木県国際交流協会(TIA)では、賛助会員を募集しています。皆さまからの賛助会費は、TIAの様々な事業に使わせていただき、地域の国際化に役立っています。

会員の特典: ●TIA主催・共催等の各種イベントやセミナー等の情報提供。●TIAニュース「やあ!」を年4回送付。●会員証の提示により指定店の旅行企画商品および海外旅行用品の割引●ビデオ録画方式変換(海外⇄日本)の無料サービス●団体賛助会員には、とちぎ国際交流センター利用の場合、予約は2か月前から先行受付(通常は1か月前より受付)。

年会費: 個人 3,000円
 団体 10,000円
 法人 30,000円

栃木県国際交流協会 事業案内 Tochigi International Association(TIA)

～とちぎ国際交流センターの交流ラウンジ・図書閲覧室は
どなたでも気軽にご利用できます～

■相談事業

在県外国人また県民の皆さまの国際交流・国際協力に関する相談に、専門の相談員が対応

■機関紙の発行・情報提供

TIAニュース「やあ!」や在県外国人向け外国語情報紙の発行
とちぎ国際交流センター内には情報交換のためのメッセージボードの設置

■各種イベント・講演会

国際交流促進や国際協力意識高揚を目的とした各種イベントや講演会の実施

■TIA協力者バンク

ホストファミリーバンク、インストラクターバンク、トランスレーターバンクの運営

■とちぎコミュニケーションネットワーク(TCN)

在県外国人のネットワーク。イベント等の情報提供、国際理解講座等への協力

- *この他さまざまな事業を行っておりますので、お気軽にお問合せください。
- *会議室等の施設利用についてはご相談ください。(国際交流、国際協力などの会議等)

新規賛助会員の方々

個人: 佐倉 等様
～ご入会ありがとうございます～

財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人(寄付金の損金算入等の課税特別措置)の認定を受けています。当協会の事業にご賛同くださる各企業、団体等からのご出捐をお願いいたします。

〈人事異動のお知らせ〉

海老沼勝義が退任し、橋本俊一が理事長に就任。業務課長が和田利男から大塚和弘に交替。

新たな発見 ブラジル・エコ・ツアー

日本列島が
すっぽり入る大湿帯「パンタナル」
釣、動物観察など7、8月が最適



ちらちらと可憐に飛ぶ
ニンファディウム カイカエ

ツニブラトラベル株式会社



東京都中央区八重洲2-7-7旭ビル〒104-0028
Tel 03-3272-2865 Fax 03-3271-5319
E-mail sato@tunibra.co.jp
<http://www.tunibra.co.jp>

大阪・名古屋・浜松
サンパウロ・リオデジャネイロ・イグアス・ベレン・マナウス
東京都知事登録旅行事業 3-3906 日本旅行業協会正会員

TIAご案内図



編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会
住 所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内
T E L 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
F A X 028-621-0951
業務時間 8:30～17:15
休 館 日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日